

機関番号：13701

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008 ～ 2010

課題番号：20591221

研究課題名（和文） 小児科領域における客観的臨床能力評価システムの開発

研究課題名（英文） Development of Objective Structured Clinical Examination for Pediatrics

研究代表者

鈴木 康之（SUZUKI YASUYUKI）

岐阜大学・医学部・教授

研究者番号：90154559

研究成果の概要（和文）：小児 OSCE（客観的臨床能力試験）を臨床技能評価試験として定着させるために、以下の研究を実施した。

- 1) 小児 OSCE に関するワークショップの開催：3回のワークショップを開催し、合計40名の参加者を得て、小児 OSCE の必要性、課題作成方法、実施上の注意点等について、参加者とともに議論をしながら、理解を深め、実際に使用できる課題を作成した。これらのワークショップ開催を通じて、小児 OSCE の普及を図ることができた。
- 2) 小児 OSCE 用の課題作成：3回のワークショップで7つの課題（脱水の評価、発達の評価、急性胃腸炎、腸重積、ロタウィルス感染、クループ、川崎病）を作成した。
- 3) 小児科の臨床技能教育、小児科学の新しい教育法に関する研究：小児科への動機付けを図り、子どもとのコミュニケーションの取り方、妊婦との交流を通じて子どもを育てる喜びを実践的に学ぶ「地域体験実習プログラム」を開発した。またスキルスラボにおいて、シミュレータを活用した小児科臨床医学教育法をパイロット的に実施し、方法論を検討した。

研究成果の概要（英文）：To develop the OSCE for Pediatrics, we carried out a series of workshops for Pediatric OSCE and developed 7 tasks for the examination. We also developed a novel education for medical students to nurture interests in Pediatrics. This research will promote basic and clinical medical education for Pediatrics in Japan.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	2,300,000	690,000	2,990,000
2009年度	700,000	210,000	910,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：医学教育

科研費の分科・細目：内科系臨床医学・小児科学

キーワード：小児科、客観的臨床能力試験、OSCE

1. 研究開始当初の背景

共用試験 OSCE が実施され、臨床実習開始前の技能教育が可能になったが、小児科 OSCE はほとんど行われていない。小児科臨床教育を充実させ、卒業時の小児科診療能力を高める手段として、小児 OSCE の導入は有効と考えられる。

2. 研究の目的

医師となるすべての者は十分な小児科分野の臨床経験を積むことが望まれている。しかし初学者が家族の了解のもとに幅広い臨床経験を積むことは年々困難になっており、小児科領域で特に顕著である。この問題を解決する1つの方策として、小児科領域における客観的臨床能力試験システムを開発し、臨床能力評価とともに、実際には経験できない症例・状況のシミュレーション教育を促進することをめざした。

3. 研究の方法

3回のワークショップを開催し、合計40名の参加者を得て、小児 OSCE の必要性、課題作成方法、実施上の注意点等について、参加者とともに議論をしながら、理解を深め、実際に使用できる課題を作成した。また、小児科への動機付けを図る、新しい教育法を検討した。

4. 研究成果

1) 3回のワークショップで7つの課題(脱水の評価、発達の評価、急性胃腸炎、腸重積、ロタウイルス感染、クループ、川崎病)を作成した。また子どもとのコミュニケーションの取り方、妊婦との交流を通じて子どもを育てる喜びを実践的に学ぶ「地域体験実習プログラム」を開発した。スキルスラボにおいて、シミュレータを活用した小児科臨床医学教育法をパイロット的に実施した。

作成課題

- 課題 A : 嘔吐, 下痢 (脱水の評価)
- 課題 B : 発達の評価
- 課題 C : 嘔吐 (急性胃腸炎)
- 課題 D : 嘔吐 (腸重積)
- 課題 E : 嘔吐, 発熱 (ロタウイルス感染)
- 課題 F : 咳嗽, 発熱 (クループ)
- 課題 G : 発熱, 発疹 (川崎病)

課題例

患者名：赤城裕次郎 8か月男
ここは救急外来です。8か月の男児が、嘔吐、下痢のために、母親に抱かれて来院しました。来院時の体重は7.8kgで、体温は37.5度でした。7分で医療面接を行いなさい。面接終了後に、次の課題を示します。課題は3つあり、全体で15分です。

患者名：村岡和也 3歳男児
11月、夜11時。ここは救急外来です。3歳の男児が、咳と熱のために、母親に連れられて来院しました。DVDを視聴した後、患者を誘導し6分で医療面接を行いなさい。なお、DVDは後でみることができます。面接終了後に、次の課題を示します。

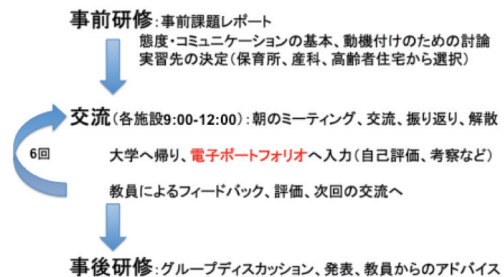
2) 小児科への動機付けを図り、保育園児との交流を通じて子どもへの接し方・コミュニケーションの取り方、妊婦との交流を通じて子どもを育てる喜びと不安などを実践的に学ぶ「地域体験実習プログラム」を開発した。

地域体験実習の目標

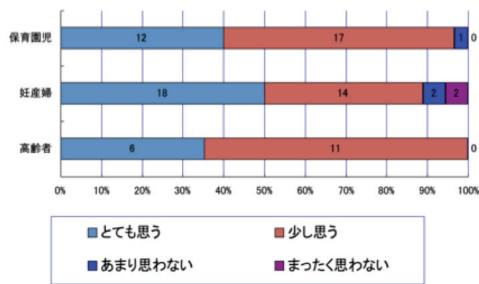
- ・地域の幼児、妊婦、高齢者と6週間にわたり一対一の継続的交流を行い、人生のライフサイクルを理解するとともに、地域における医療や保健にも関心を向ける。
- ・継続的交流を通して、自分自身の行動や感情を振り返ることで、コミュニケーションの方法を模索し、より良い人間関係の構築の仕方を身につける。



地域体験実習の方略



実習後アンケート: 将来の役に立つと思うか?



5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計 8 件)

- 川上ちひろ、阿部恵子、藤崎和彦、丹羽雅之、鈴木康之. 保育園児・妊婦との継続的交流体験の教育的効果: 医療系学生の気づきと学び. 日本小児科学会雑誌 115:132-137, 2011 査読有
- 鈴木康之: シミュレーション医学教育. 小児科臨床 63: 55-57, 2010 査読無
- 鈴木康之. 小児科における OSCE. 小児科 50:85-92, 2009 査読無
- Rethans JJ, Ban N, Suzuki Y: Future use of skills laboratories at Medical Schools in Japan: how to transform these into effective educational departments? Medical Education (Japan) 2009;40:341-346 査読有
- 鈴木康之、高橋孝雄、中畑龍俊、奥山眞紀子、松尾雅文、堤裕幸、五十嵐隆、河野陽一、古川漸、原寿郎. 小児科卒前臨床実習に関するアンケート調査結果(日本小児科学会教育委員会報告). 日本小児科学会雑誌 112:793-801, 2008 査読有
- Evans P, Suzuki Y, Begg M, Lam W. Can medical students from two cultures learn effectively from a shared web-based learning environment? Medical Education 42(1):27-33, 2008 査読有
- Evans P, Suzuki Y. "Beyond Competence". Why Should Outcomes be Adopted in Favour of Competences? Medical Education (Japan) 39:87-91, 2008 査読有
- Evans P, Suzuki Y. "Beyond Competence", Assessment for Capability. Medical Education (Japan) 39:93-96, 2008 査読有

[学会発表] (計 15 件)

- Wakabayashi H, Abe K, Fujisaki K, Kato T, Niwa M, Nawa M, Kawakami C, Muraoka C, Suzuki Y. A longitudinal community-based experience programme for medical students: Let's experience human communication on our common family life-cycle in our community. AMEE 2010, 2010.9.4-8, Glasgow, UK
- 村岡千種、阿部恵子、藤崎和彦、丹羽雅之、加藤智美、若林英樹、那波潤美、川上ちひろ、鈴木康之. 継続的地域体験実習 2 年間の取り組み～地域住民とのコミュニケーションを通じて～. 第 42 回日本医学教育学会、2010.7.30-31、東京
- 鈴木康之. 小児科医と医学教育. 日本外来小児科学会第 14 回実習指導者研究会. 2010.7.11、西宮
- 鈴木康之. 小児医療教育: 最近の考え方と取組. 第 9 回北陸小児救急・集中治療研究会. 2010.5.15、金沢
- 鈴木康之. 小児科医育成の目標と戦略. 第 113 回日本小児科学会学術集会. 2010.4.23-25、盛岡
- 藤崎和彦、鈴木康之、丹羽雅之、加藤智美、阿部恵子、若林英樹、那波潤美、川上ちひろ. 岐阜大学継続的地域体験実習の概要と成果. 第 41 回日本医学教育学会、2009.7.24-25、大阪
- 那波潤美、川上ちひろ、若林英樹、阿部恵子、加藤智美、丹羽雅之、藤崎和彦、鈴木康之. スキルラボにおける学習プログラムの構築と指導法の検討. 第 41 回日本医学教育学会、2009.7.24-25、大阪
- 川上ちひろ、鈴木康之、Robert Carachi、Peter Barton. グラスゴー大学における卒業前 OSCE. 第 41 回日本医学教育学会、2009.7.24-25、大阪
- 加藤智美、鈴木康之. ハーバード大学における卒業試験 OSCE. 第 41 回日本医学教育学会、2009.7.24-25、大阪
- Abe K, Wakabayashi H, Kato T, Nawa M, Kawakami C, Fujisaki K, Niwa M, Evans P, Austin E, Suzuki Y. A preliminary study of emotional intelligence and empathy in first year medical students with 6 weeks community based practice. 第 41 回日本医学教育学会、2009.7.24-25、大阪
- 鈴木康之. 医学教育における小児科医の役割. 第 122 回日本小児科学会岩手地方会特別講演、2008.12.13 盛岡
- 川上ちひろ、阿部恵子、鈴木康之、藤崎和

彦、丹羽雅之。保育園児との継続的交流から学んだこと：岐阜大学医学部地域体験実習の試み。第40回日本医学教育学会大会、2008.7.25-26 東京

13. 川上ちひろ、阿部恵子、鈴木康之、藤崎和彦、丹羽雅之、今井篤志、成川希。妊婦との継続的交流から学んだこと：岐阜大学医学部地域体験実習の試み II。第40回日本医学教育学会大会、2008.7.25-26 東京
14. 阿部恵子、川上ちひろ、鈴木康之、藤崎和彦、丹羽雅之。保育園児あるいは妊婦との継続的交流が学生の情動に与える影響：岐阜大学医学部地域体験実習の試み III。第40回日本医学教育学会大会、2008.7.25-26 東京
15. 鈴木康之。大学病院の立場から見た教育・研究における病診連携。第111回日本小児科学会学術集会 2008.4.27 東京

[図書] (計6件)

1. 阿部恵子、鈴木康之、Gibbs T, Evans P, 宮田良平、横地律子、棚橋裕吉、中田由紀子、飯田啓太郎、伊藤真理子、阿部妃名子。Professor Gibbs' History Taking & Physical Examination: Gibbs 教授の英国流診察スキルー医療面接と系統的身体診察一。三恵社、名古屋、1-50、2010
2. 阿部恵子、若林英樹、Evans P, 鈴木康之、岩田佳久。Practical English Conversation in the Medical Interview: Lower back Pain 英語で学ぶ医療面接の基礎ーコミュニケーションと異文化理解一。三恵社、名古屋、1-50、2010
3. 鈴木康之、錦織 宏監訳。医学教育の理論と実践。1-498、篠原出版新社、東京、2010
4. 加藤智美、丹羽雅之、藤崎和彦、鈴木康之編。新しい医学教育の流れ'09 冬。第31回医学教育セミナーとワークショップの記録。1-167, 2009
5. 阿部恵子、丹羽雅之、藤崎和彦、鈴木康之編。新しい医学教育の流れ'09 夏。第33回医学教育セミナーとワークショップの記録。1-239, 2009
6. 鈴木康之。医学教育。小児科学第3版 医学書院 東京 pp 1855、309-313, 2008

[産業財産権]

- 出願状況 (計0件)
- 取得状況 (計0件)

[その他]

ホームページ

<http://www1.gifu-u.ac.jp/~medc/>
(岐阜大学医学教育開発研究センター)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鈴木 康之 (SUZUKI YASUYUKI)
岐阜大学・医学部・教授
研究者番号：90154559

(2) 研究分担者

加藤 智美 (KATO TOMOMI)
岐阜大学・医学部・助教
研究者番号：90345778

阿部 恵子 (ABE KEIKO)
岐阜大学・医学部・助教
研究者番号：00444274